

令和7年度 第2回美濃加茂市総合教育会議 会議録

1 開会日時及び場所

令和7年10月31日(金)午後2時00分から午後3時30分まで
美濃加茂市生涯学習センター 2階202会議室

2 出席者

(教育委員)

教育長 古川 一男
委 員 武田 由美
委 員 渡邊 博栄
委 員 安藤 摩里
委 員 楠間 月絵
委 員 中西 東峰

(美濃加茂市)

市 長 藤井 浩人
ひとづくり課長 大野 昭仁
(事務局)
教育委員会事務局長 渡辺 明美
学校教育課長 明星 裕
教育地域展開担当課長 梅村 高志
施設対策監 丹羽 泰成
教育センターチーフ 佐伯 好洋
教育総務課課長補佐 太田 文生

(同席者)

副市長 丸山 克彦
秘書広報課長 日比野 正

3 欠席者 なし

4 開会 午後2時00分

5 議事日程等

(1)市長あいさつ

(2)会議録署名者の指名

(3)協議事項

- 若者が輝くまちづくり(ひとづくり課)について
- その他

会議録

(1)市長あいさつ

藤井市長

皆さん、こんにちは。本日も大変お忙しい中、第2回の総合教育会議を開催させていただきますこと心から感謝申し上げます。

教育委員の皆様方におかれましては、今年度半年が経過して、もう1ヶ月が終わるということですけれども、秋の運動会も積極的にご出席いただいたり、日頃から地域の子どもたちの活動を確認いただいております。そしてまた、様々な事業が市としても展開される中で、国際交流であったりとか、部活動も中体連が終わって今新たなチームや編成になっていく中で、様々な声をお聞きいただいているような状況ではないかなと思っています。

当然、私のところにもいくつも届いておりますし、その中には良い情報もあれば、課題を感じるような情報もまだまだたくさんありますので、しっかりと私たちとして課題を一つ一つ乗り越えていきたいと思っています。

そういった中で、この時期に開催させていただく総合教育会議ですけれども、今日、議会の委員会を行いまして12月の議会の中身を説明したわけです。行政においては予算を固める時期になってきておりますので、この段階で市の幹部には、例えば教育委員会だと、今日紹介になりますひとつくり課の方から、来年度はこういった事業を展開していくという話があります。しかしながらそういった各事業が提案されるわけですけれども、予算には限りがありますし、物価高騰の折ですので最低限やらなければいけない福祉とか、例えば学校であれば施設の營繕そういうものについての予算を確保すると、どうしてもチャレンジしたいような取り組みが埋没してしまうということがありますので、今日はテーマとしまして、「若者が輝くまちづくり」ということを皆さんにご理解いただいて、いろいろなご意見を賜り、それ以外の取り組みのお話なんかについてもぜひご意見をいただきたい。

各部署の取り組みにご意見を賜りますと、これから政策決定においても教育委員の皆様方のご意見は非常に貴重なものになってきますし、また教育長の追い風にもなるんじゃないかなと思っておりますので、この時期までに予算をしっかりと確保しなければいけないという中でのこの会議の位置づけも今一度教育委員の皆様にご理解をいただきたいと思います。

最後に後ほど説明がございますが「若者が輝くまちづくり」ということで、今日は居場所づくりのお話なんかも出てくると思うんですけれども、ここ数年コロナもあって、一時期途絶えたこともありますけれども、市の行政としては中学校の義務教育までを関わるというところで留まりがちですけれども、美濃加茂市としましては高校生や大学生、そしてその先までしっかりと関わっていこうというようなフロム0歳プランを大切にさせていただいてきたという経緯の中で、今、高校生や大学生の活躍を市内で多く目にできるようになってきました。その一環としての今回の事業でございますが、まだ立ち上がったばかりの事業ですので、ぜひ期待を込めたご意見を賜れればと思います。

その他の時間も設けておりますので、ぜひ忌憚ないご意見を賜りたいということを最後に申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

今日もどうか、よろしくお願ひ申し上げます。

(2)会議録署名者の指名

藤井市長	はじめに、会議録署名者としまして、古川教育長にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。
古川教育長	はい。
藤井市長	ありがとうございます。それでは会議録署名者に古川教育長を指名いたします。

(3)協議事項

若者が輝くまちづくり(ひとづくり課)について

藤井市長	次に、協議調整事項に移ります。 先ほどご挨拶で申し上げましたので少し割愛しますが、今日は資料をお配りさせていただいております「若者が輝くまちづくり」ということですけれども、先ほど申し上げました通り高校生そして大学生を中心に活動の支援をさせていただいている。もう少し補足しますと政策全体面から言うと、この若者への支援というだけではなくて、若者から直接の意見やお話をいただきながら若者から選んでもらえるようなまちづくりも考えなければいけないということも一つの期待ではないかと思っております。 政権が変わりまして高市総理大臣が日々頑張っていただいておりますけれども、一時期、石破総理が楽しい日本というスローガンを掲げようとした時にすごくマスメディアから叩かれたんですね。あれについて私としては裏話も聞いていたので、ちょっと残念だなと思ったのが、今、この美濃加茂市はまだ人口を維持できていますが、人口がどんどん都市の方に流出してしまうという課題がある中で、10年前20年前に、なぜ若者たちや現役世代は都会へ行ってしまうのかというアンケートを取ったところ、回答の圧倒的一番が働き先がない、地元には働く先、働きたい場所がないから東京に行くというような回答が多くたんです。けれども、確かここ4~5年ぐらいかコロナ禍ぐらいからですね、仕事の働き方も変わったということもあったんでしょうけども、働く場所がないということではなくて、地元には楽しい場所がないから出ていくんだというように若者たちの行動が変容してしまっているというデータがあります。おそらく、それに基づいて石破総理は地方をもっと楽しいと感じてもらえるような国にしていきたいということで、ああいったスローガンを掲げられたんですけども、うまくそれが伝わらなかったんじゃないかと思い非常に残念でした。
------	--

そういう前提を踏まえた上でも、美濃加茂市はありがたいことに、子育て世代には選んでいただいている傾向があります。そこは今日お集まりの皆様方のお力もあって大変ありがたいんですけども、直接若者たちと話をする中で若者にも、この地域を自分たちで選んでいくんだ、自分たちで良くしていくんだと思ってもらえるような取り組みも展開していきたいということも政策全般の狙いとして持っております。

そういった中でのユースセンターまたは居場所づくりという位置づけもありますが、そういったところについて担当課の方から説明をしていただきますのでよろしくお願ひしたいと思います。

大野課長

改めましてこんにちは。私は美濃加茂市役所市民協働部ひとづくり課課長の大野と申します。本日はご説明させていただくお時間をいただきましてありがとうございます。

ひとづくり課は、ここ生涯学習センターが拠点となっておりまして、もともと生涯学習というところがメインの部署でございます。そこに若者活躍ですか、女性活躍とか、一人一人が輝けるよう支援していきたい、そういった事業を展開していくために、新たにひとづくり課という名前にさせていただいております。

第6次総合計画におきましても若者活躍、女性活躍というのは非常に重要な課題であるということもあり、我々もそういったことを自負しながら事業を推進し、また新たな事業を展開していくこうと努力しているところであります。そのうち、今回は若者の活躍というところにつきましてご説明をさせていただきたいと思います。皆様お手元に資料を配布させていただいております。画面上も同じ資料になっておりますので、見やすい方でご覧になっていただければと思います。

今回は、「若者が輝くまちづくり」と題させていただきました。ひとづくり課におきましては、「若者と未来をつなぐ事業」という事業名で、若者たちと地域をつなぐ事業、そういったところに中心に進めているものであります。若者が積極的に地域に関わることによって美濃加茂市に愛着を持ち、将来的に地域で活躍する人を育てるという少し固い言い方になっておりますけれども、地域で活躍する人たちを知ってもらいたい、また地域の課題って何だろう、地域で自分たちのできることって何だろう、そういった基本的なところに触れていただきながら、関わりを持っていただくようなところを行政として後押ししたい、そんなことが事業の目的となっております。

先ほど藤井市長からもお話をありがとうございましたが、全国的に人口の減少、それから少子高齢化など若者たちを取り巻く基本的な環境というところが刻々と変化をしてきております。前年度高校生を対象にお伺いしたんですけども、高校生としては確かに市長がお話をされましたように、地域に愛着を持つという高校生は多くありながらも、特にそういったことを感じないと言われる方の理由として、特に魅力がない、楽しい場所がない、遊べるところがないと言われている高校生也非常に多くあります。

楽しい場所を直接的に作るよりも、まずその人たちが関心を持てるようなことや、そういったところに繋げていけないかと考えています。特に若者がそういった理由で都会に出てしまったり、また子育て環境というところで、出産や結婚等において退職を余儀なくされてしまった方がまた仕事をするとか、そういったところを考えていく上で都合のいい場所を探して移動されていくのではないかと思っています。そういったことから、企業や地域の担い手不足に繋がっていくといったことが今起こっているところです。

高校生、中学生や若い年代の方に地域に関心や愛着を持っていただくことによって、一度は仕事等で出ていくこともあるかもしれない、でもまた戻ってきて

たい、やっぱり地元で働きたい。もちろん海外で働きたいとか、そういう夢を持ついらっしゃる方は十分にそういう応援もさせていただきたいと思いますけれども、地域のことをいつまでも思っていただける若い人たちを一人でも育てていきたい、そんな思いで行っている事業となっております。

続きまして、具体的にどのような取り組みをしているかというところ。大きく4点挙げさせていただいております。

1つ目に、地域活性化スクール事業となります。こちらは市内在住学の高校生を対象にした事業となっています。

2つ目に、STEAM事業。こちらは小学生から高校生を中心とした事業となっています。

3つ目に、若者活躍実践グループ支援事業とちょっと長い事業名ですけども、こちらは大学生辺りの年代を中心とした事業となっています。

そして4つ目に、若者活動支援事業。こちらは中に3点ございますが、若者の居場所づくりに関するもの、それから若者が自主的に地域で活動することに対する支援、若者にいろんな分野に関心を持っていただき、学ぶ意欲を高めるための事業。

こういった取り組みを中心に展開しております。

次のページからそれぞれの事業について説明させていただきます。

1つ目の地域活性化スクール事業です。こちらでは市役所の若手職員を中心にプロジェクトチームを作っております。若手の職員はひとつずつ課の職員ではなく、庁内のあらゆる課から我こそはと言つていただける方にチームを作つていただき、そのメンバーが中心となり、市内在住学の高校生を対象にフィールドワーク、ワークショップを通じて新たな気づきや学びの機会を提供する活動を進めています。

写真にもありますとおり、駅南の広場を使ったイベント、「EkiFes」と名付けておりますけれども、こういった活動に携わっております。これは、高校生の皆さんのが地域で活動することを実際に模擬的にやってみて、地域の関わりというところを実感していただきたいといったことを目的にやっている事業で、多くの若者が関わっています。

また、真ん中そして右側の写真を見ていただきますと、地元企業と連携して商品の開発ですか、そういうことに取り組むというのも体験としてやっております。実際に開発した商品を商品化してお客様に食していただく、手に取つていただきというところまで進められておりまして、これは数年前からやっているところです。企業の方にとっても若い人たちに関心を持っていただける機会だということで、好意的に受け止めていただきながら、こういった活動が続けられております。

また、一番右側ですね。ピザソース開発ですが、こちらは企業と連携してやることに加えて、こういった活動に必要な資金をクラウドファンディングで調達するというところにも挑戦をしています。金額的に大きな額ではないんですけども、目標としている額は達成する見込みで今実行しているところだと聞いております。

続きまして2つ目、STEAM教育事業とあります。

こちらは小学生から高校生を中心に、地域、自然、科学、そういうしたものに触れる通じた体験教育の機会を提供しています。STEAM教育はサイエンスですとか、テクノロジー、アート、マスマティックですとか、理系の教育ではありますけれども、単に理系を追い求めるということよりも、楽しく地域の現場に出て体験していただく、またSDGsの考え方ですとか、そういうものも含めながら体験していただく機会というのを設けながら参加していただいている

す。

なお、この写真、漫画のイラストの後ろに高校生と子どもたちが交流している写真がありますけれども、こちらは教員を目指している高校生を募集しまして、実際に三和小学校を舞台に模擬授業を実施するということをやりました。テーマは自然環境なので、三和小学校の外に出てルートを散策しまして、自然を見てもらうとかそういう動きを入れながら小学生と交流をしてもらうということを実際にやっております。今年も動いておりまして、多くの高校生の方に参加していただいております。

次のページ、3つ目、若者活躍実践グループ支援事業です。こちらは大学生を中心に地域での実践活動を支援しています。高校を卒業した若者を地域で繋ぎ、地域課題への取り組みを実践しています。先ほどの地域活性化スクール事業と似たような動きというところがありますけど、こちらは大学生を中心ということで、さらに活動範囲、自分たちで動いて地域と繋がっていくというところが多くなります。例えば、こちらもまた駅南地域を利用したイベントを企画開催を行っていますが、各施設への説明交渉、許可を得るという動き、そういうところにまで大学生に動いていただきながら地域の課題というところをどう解決していくか、高校生よりも深く考えながら行っているところであります。

実際にこの事業を行うにあたり、高校生、中学生までの支援というところはこれまでやってきましたが、大学生ぐらいになりますとなかなか関わる機会もなかったので、高校生までで支援が切れ、その子たちは特にそれからは地域に関わることはなくなり、どこか別の拠点を求めて美濃加茂市から出てしまうことがあります。高校生以上の年代でも地域と関わる機会を作らせていただいて、地域に関わり続けることができるというところを目指して行っています。

そういう3つの事業を昨年度まで実施しております多くの若者に関わっていただきました。昨年度の実績でいきますと、全体で関わった若者の具体的な実人数としましては96人となっています。また、それに関わるプログラムの実施回数としては8回となっています。また、こういった若者たちの動きによって動いた大人等も含めた人数は460人ほどということで、若者が企画して運営した事業に対しても、周りの大人たちの動きというところもあり、地域の若者たち以外の方にもこういった活動を知っていただく機会にも繋がっていると感じております。

続きまして、4番目の若者活動支援事業でございます。

こちらにつきましてはこの令和7年度からスタートしている事業でございます。先ほど3点と申し上げましたが、大きく3点に分かれた事業となっております。1つ目は、学校・家庭以外でも誰かと語り合いたい、安心して過ごしたい、そういう思いに応えるべく若者の居場所を整備運営すること。2つ目は、何

か取り組みたいけどアドバイスが欲しい、活動資金も必要、そういう前向きに捉えていらっしゃる若者に対する支援として若者が行う地域活動に対する助言・活動費用の補助をすること。それから3つ目は、興味が持てるものが欲しい、将来何になりたいのか、そういうもののを見つけるきっかけになるよう、若者が様々な分野に関心を持ち学ぶ意欲を高める事業を実施すること。こういった3点を新たに実施していくと進めております。

若者の、私の居場所ができた、やってみたいことができた、夢ができた、といったことに繋がることで、さらにふるさとへの愛着に繋がればという思いでおります。

次のページをご覧になってください。10月2日に、ここ生涯学習センター6階に美濃加茂ユースセンターをオープンさせていただきました。ユースセンターというのはちょっと固い名前ですが、今のところこういった呼び方をしております。こちらの場所は、中学生から20代までの若者なら誰でも無料で利用することができます。毎週火曜日・木曜日、午後4時から8時の4時間、常時2人以上のスタッフが管理しております。業務委託によって受託者がスタッフを配置し、会場の管理からイベント等の企画運営を実施しています。

下に写真があります。少ないシーンですけども、左側の写真は、多くの皆さんのが集まって一つのことを話し合っている様子です。右側は個人で勉強するスペースで一人で時間を使っている。そういうたった場所ですので、集まって雑談するもよし、相談するもよし、個人で勉強に励むのもよし、自由に過ごすことができます。不定期でお楽しみイベントなどを開催して新たな来場者を求める、そういう取り組みをしています。業務委託によると書いてありますが、こういった施設運営に長けたスタッフが管理運営をされています。

次のページをご覧になっていただきますと、プレオープンを9月25日に行っておりますが、こちらも含めましてこの1か月の利用実績を挙げさせていただいております。10月28日までに合計127人の利用があります。右側を見ていきますと大学生、高校生、中学生の内訳が書いてあります。ご覧の通り高校生の利用が最も多くなっております。

高校生は学校帰りに自転車で来て帰っていくという形が取れますので、来場者も必然的に多くなっているかなと。中学生につきましては一旦家に帰って保護者による送り迎えがあるというような格好で、このぐらいの人数になっていますが、予想していたよりも多くの中学生が初めから関わってくれているなという印象があります。たまたま送り迎えに来た保護者の方がありましたので話を聞きますと、「学校を通して知った」「PRを見てなんとなく楽しそうだったから来てみた」「来てみたらいろんな人がいて、話しかけてくれたりして楽しかったから、また来てみた」というものすごくシンプルな理由で来ていらっしゃいました。大学生の方が数名来ておりますが、これは参加者というよりもスタッフ側としての立ち位置で、委託業者から声をかけられて運営のサポートとして来ている方が大半でした。今、PRといたしましては、学校を通してチラシを配布させていただいたり、インスタグラムでのイベント告知を行っていただく、また、会場に来れば、近々どんなイベントがあるのか分かるように表示をしたり、そのようなPRの仕方をしております。

月127人というのは、このぐらいの数字になってくれたらいいなという目標値に近い数字になっています。この規模このぐらいの来場者数というのを維持、そしてもう少し増やしたい。PRにつきましては、業者委託だけではなく、市の方でも積極的に行っていきたいと考えております。

付け加えさせていただきますと先ほど申し上げました通り、対象の若者であればどんな方でも利用することができます。参加の条件は特にないんですけども、いろんなところから情報を聞いて、学校にはまだ行きづらいけどもこういったところに一回行かせてみようかという保護者の思いの中で来ていらっしゃった方もありました。また、高校は辞めてしまったけども、こういった繋がりが必要なんじゃないかという周りのあと推しで参加されたという方もありました。

少しずつPRに広がりができるといろいろと個別の事情や背景をお持ちの方も出てくるだらうと思っておりますが、どなたでも受け入れられるよう委託業者とも日々相談しながら体制を整えてきているところであります。

最後のページになりますが、こちらはユースセンターの今後の展望という書き方をしておりますが、若者活躍という部分も含めて書かせていただいております。

1つ目、大学生との関わりです。ユースセンターの話ではありますが、スタッフも社会人、大人の方ということにはなっていますが、大学生が関係することによって参加者が近い将来の自分の姿というところを考える機会にもなっています。このユースセンターのイベントとしまして、大学生と話そうというような企画もあります。なんでその大学を選んだのか、将来何をしよう、何になろうと思っているのか、どんなことを考えて受験していたのか、そういうことについて年若い大人と話せる場所となるように、大学生との関わりを大事にしていきたい。もちろん、若者事業全般におきましても、大学生との関わりというところを大切にしていくつもりであります。

それから2つ目、地域の人や企業との関わりです。こちらはユースセンターとしての関わりというところで強めていますが、先ほどご説明しました地域活性化スクールの活動におきましても、地域や企業との関わりによって地域の人たち、それから企業の人たちが若者たちに関わってもらえる喜びを感じている場面を多く見ることができました。より多くの企業、地域と関わり、そして企業、それから地域の課題に若者たちと一緒に向き合えるような、お互いに理解し合えるような場になるようにということで、ユースセンターとの関わりを目指していきたいです。

最後に3つ目、なりたい自分を見つける。こういったユースセンターの活動を通して、その中で取り組むべき事業の一つ。若者たちが体験できるような講座やセミナーなど、小さく入りやすいところから自分の将来像ですか、自分を見つけられる場所となるような若者活躍の事業を目指していきたいということで、今後の展望として話させていただきました。

長くなりましたが、そういった思いを込めてこの事業を進めてきております。ご意見をいただけますと幸いです。よろしくお願ひします。

藤井市長

ありがとうございました。

本日の協議はこの内容が全てです。今お話をありました若者活動支援事業ということですけれども、ぜひ全ての委員の皆様方に、ご質問やご意見などいただきたいなと思いますので、順次ご意見を賜れればと思います。まず、質問とかもう少し詳しくとか少し分かりにくかったこともあったような気もしますので、もしご質問等あれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

榎間委員

今、活動に参加している子たちの人数が上がっていたりするんですけど、どういうふうに申し込みをしてきますか。個別の方が多いとか、仲良しで来ているとか、こちら辺のところをちょっと教えてください。

大野課長

ありがとうございます。

若者活躍事業でこれまで中心となっていた地域活性化スクール事業という活動においては、若手の職員が高校に出向いて地域課題探求の授業の時間に説明させていただく機会をいただくなどしてPRしています。基本的には、高校側が企画したものに参加していろいろお話をしたりとか、地域の企業と繋げるということをやったりする。そういったところで説明をすることによって、また実際に高校生が授業の中で取り組みをしていくところに市の職員とかそういった地域、企業の方が関わる機会がありまして、その活動を通して、今度はこういうことをやってみるという風になるというような感じです。

特に今一番関係が濃いのは加茂高校すくとも、加茂高校の生徒さんが中心になってそういった活動の機会を探していただける。それだと加茂高ばかりすくとも、今度はその加茂高の生徒さんが友達で他校の生徒さんを連れてきていただけるというようなことで、他の学校の生徒さんも加わるというような形ですね。ですので、そういった授業をきっかけにということの方が多いです。そういったことも何年かやってきていると、単純にこういうことをやりたいんですけど、興味ある人いませんかというお話を持っていくと、何人かが手を挙げていただけて。特に先ほど説明しました、高校生が模擬授業をやるといったところも、十何人がやりたいと言ってくれます。この何年かの積み上げの中でこういった流れができているかなと思います。

榎間委員

ありがとうございました。

藤井市長

そのほか何かご質問ございませんか。

古川教育長

10月にスタートしたユースセンターについてです。

貴重な若者の活躍の場ということで、これを形にしていただいたなということを思っています。ユースセンターの実施状況の表も見せていただいて、まだ始めて1月も経たないような状況すくとも、今まで利用している人たち、大学生や高校生、中学生を含めて固定化しているのか、メンバーが内容によって変わっているのか、イベントによって反応が違うということも聞いているんですけど、参加している人たちの様子を聞かせてもらえませんか。

- 大野課長 127人という数字を表に挙げさせていただいておりますが、これは延人数です。実人数になってきますと、この表にはないんですけども50数人です。ですので、固定化しているといいますか、常連さんじゃないんですけど何回も繰り返し来てらっしゃる方というのもありますし、来ていただいている方が友達を呼んでくるというところが多いです。
- この表の中にイベントって書いてありますが、イベント自体は、焼きそばの会とかお遊び的な要素があるんですけど、こういったことがあるときに友達を呼んできているというようなところで増えてきているというところです。
- 古川教育長 ありがとうございます。
- 藤井市長 そのほかよろしいでしょうか？
- 中西委員 焼きそばの会とか企画の内容によって経費的なものは参加費とかの形で出てくるわけですか。
- 大野課長 業務委託として契約を結んでいる中の経費として、活動費を算出してお渡ししているので、その中でやりくりして開催していただいているということになりますので、今のところ個人がお金を払うとか、そういったことはありません。
- 中西委員 委託は年間ですか。
- 大野課長 業務委託につきましては5年間としておりまして、それぞれ年度ごとに、どのぐらいの業務ができたのか、どのぐらいの来場者があつてどんな感想を得たのかというところを評価をさせていただくということを毎年行わせていただくような条件の契約となっています。また、毎年評価をするという手法を取ることを前提にした国の交付金を使わせていただいておりますので、市役所の予算だけではなく、国の交付金も利用しながら実施しているところであります。
- 藤井市長 事業の予算規模は。
- 大野課長 予算規模といたしましては、ずっと5年間で5,600万円です。
支払いは単年度ごとで、各年ずっと1,100万円程度というところです。国の交付金がその半分程度というところです。1,100万円の中には、ユースセンターに配置するスタッフ、それから若者の活動を支援するための補助金としての予算、それから講座等を開催するための費用、そういったものも含めたものとなっております。
- 藤井市長 ご質問等はよかったです。
- 武田委員 一つ確認ですが、高校生で来ている子たちは、加茂高校が多いということですが、美濃加茂在住が多いんですか。

大野課長	高校生は自転車で来て帰っていくという動きですので、市内の方が多いです。市外の方でも来ていただくことは構いませんので、制限はしておりませんけれども。街の方では公共交通機関が使われる方が多いと思うんですけど、この辺りでは自転車で通われる方が多いですので、個人で来て帰られる方という感じになります。
武田委員	特に制限はないという事ですね。
大野課長	無いです。
武田委員	ありがとうございます。
藤井市長	住所地について実績の数字は取っていますよね。
大野課長	ここには出でていませんけども、ざつと。
藤井市長	どんな感じかは分からぬですか。
大野課長	すみません。市内市外の集計はまだです。
藤井市長	外国籍の生徒さんもいらっしゃいますよね。
大野課長	そうですね。多くはないんですけども一緒に来ていると思います。 国籍は分からぬんですけども、失礼ながらそう見える方はいます。
藤井市長	そのほかご質問はどうでしょうか。 では、ご意見ご感想なんかも含めてお願ひできればと思いますので、渡辺委員からお願ひしてもいいですか。
渡辺委員	<p>若者という言葉自体も小学校、中学校、大学、また20代と幅広い中で、若い人という定義自体もなかなか難しい中で、いろいろと試行錯誤しながら取り組みをされているのかなというところと思うんですけども、本当にいろんな世代の方に対してのいろんな企画ということで、しかも市の若手職員の方のプロジェクトチームなんかも作っていただいてということで、本当に若い方に対しての手厚い事業を展開していただいていることに、本当に驚いたというか、大変感心しました。</p> <p>若者が輝くまちということで、自分もいつの間にか若いつもりが50歳が近いという中で、本来は若い人は輝いていて当たり前かなというふうに思うところがあるんですけども、そうじゃない、もしくはもっと輝いてほしいというところからのこういった事業だと思うんですが。</p> <p>その背景として、今の人口減少、少子高齢化、こういったことが地域をどんどん変えていくって、若い人たちが魅力を感じにくく、もしくは自分自身もその当時はわからなかったということもあると思うんですけど、魅力を感じにくい実</p>

感しにくいという状況が起こっているのかなというのを感じました。ぜひ若い人たちにまた戻ってきてほしいというのは本当に大事なことで、こういった取り組みが10年後、20年後に花開くように地道ながらもいろんなことをやっていく必要があるのかなというふうに思って聞いておりました。

こういった若い人が参加する形の事業というのが、よくある働きアリの法則じゃないですが、やっぱり2対6対2で、上方の働きアリの人たちは積極的に参加されたり、活用して自分の身になるように頑張ると思うんですが、そうじゃない中間の方とか、あまりこういうのが好きじゃないという方、また積極的に地域を好きじゃない、魅力を感じないと言っているような方にぜひとも参加していただけといいなと思います。友達を呼んだりということも大変いいですし、ぜひ積極的に学校にも、こういったものがあるよ、とても面白い活動が起こっているよ、という情報はどんどん発信していただけると、より輪が広がっていくと思いました。必ずしもこういった活動が好きじゃないという方もいると思うんですが、ぜひとも1回は来ていただいて、知っていただくだけでも何かしら影響があるんじゃないかなと思います。

こういったユースセンターのような居場所というのはいくつあってもいいと思うんですが、改めてこの地域の魅力を考えると、やっぱり山があって川があって自然があってというフィールドが素晴らしいというのは、どの世代の人にとっても大切なことで、そういうことが身近にある環境が本当は素晴らしいことだということを若いうちに気づいてもらえるとやっぱりこの地域の良さが改めて見え方が変わるんじゃないかなというふうに思います。ユースセンターをきっかけにすぐ近くに堤防もあるし川もあるし山もありますのでどんどん外に出ていって、比較的安全に遊べる地域というのを魅力として感じていただけるような機会があるといいんじゃないかと思いました。

あとは、今スマートフォンとかインターネットで情報を得るのは非常に簡単な時代になりました、分かった気になってしまいますが、本当の痛みとか失敗っていうのは自分が実感しないと分からなかったり、自分一人で完結できなくていろんな人と人で関わる中で磨かれていくところがあるので、地域との関わりってことは人との関わりということだと思いますので、ぜひたくさんの人と若い方が関わる場を増やしていけたらいいんじゃないかと思いました。

藤井市長

ありがとうございました。どうですか。

大野課長

ありがとうございます。

そのように発展していければ本当に素晴らしいなと思う中で、第一歩として積み上げていきたいと思います。まだ始まったばかりですので、どんなふうに効果が出るかというところを確かめながらやらせていただいております。そういった意見も参考にさせていただきながら、また今後もぜひ見ていただければと思います。

藤井市長

今お話しで、フィールドワークみたいなのってできるんですか。その事業の予算の中で。

日曜日に集まって川の体験してみようとか面白いですよね。

大野課長

そうですね。そういうた指導していただける方があれば不可能ではありません。

今のフリースペースの中だけで終わってしまうとは初めから思っていないところもありますから、そういう人があってそれにプラスアルファの費用が必要であれば参加料500円なりもらひながらやっていく。そういう子たちの気づきに繋がっていけば、また戻って、じゃあ君たちがどうするというような話ができたりということになっていけるかなと思っています。

藤井市長

そういう企画もぜひ若者たちから生まれてほしいんですけど。発想は意外と若い人にはないかもしれないから、そこはうまく世代を超えたり地域の皆さんからのご意見も彼らに伝えた上で企画が出てくるといいですね。

ありがとうございます。

中西委員

本当に若者の活躍といいますか、居場所づくりということでいろいろな工夫をしていただいていると聞いて。参加者も口コミでどんどんいったりいいかと思います。楽しみにさせていただいている。

ただ、私もアンテナが非常に低いものですから、生涯学習センターで色々な活動していただいているんですけども、このユースセンターという看板が入口にかかっているといいのではないか。

若者が見て、自分関係あるのか、あるいは関係できるのかと考えるきっかけにもなるのかと思って。なかなか市報にてもいろんな紙ベースのものを結構見ていないみたいなので、そんな形で気づきのきっかけになるものが広まりの糸口になつたらと思っています。その中で大学生、高校生の方々がまた中心に引っ張っていってくれたら、さらに充実することになるかと思います。

大野課長

入口に看板を今作っていいく準備をしています。やっぱり目立つようにしてほしいというご意見もいただいておりますので。

藤井市長

ここに来る人はまだ目的を持ってきているから、どうやってほかの対象者にリーチするかですよね。無関心の若者に対して先ほどのお話もありました通り、意識高い系じゃないところに対してどうやってアプローチするか、またじわじわやっていければいいと思います。看板もここに作るのか、街中に作るのか、いろいろあってもいいのかな。

武田委員

加茂農林も加茂高も行く機会が多いですが、加茂農林さんは地域の企業と一緒に商品開発したりとかいろんなものを地域に対して発信している部分もある。でも加茂高って、今までそういうものがなかったんですけども、そういうところに入っています。

この前も古井小で授業をしたい人という募集が貼ってあったので、そういうところだったり。あと加茂高には私も来週頼まれているんですけども、地域の大人と語る会というのもなさっているので、そういうところから地域課題について探求しようということが目的と聞きました。そういうところにもアクセスされて

一緒に連携されているのかなと聞きたかったんです。高校に入られたときいろいろな企画があって、そこにも一緒に行政が入っていらっしゃるのかな、どうなのかなと思っていました。

あとですね、私たちの未来教室、外国籍の子どもたちの学習支援にも高校生が結構来てくれています。高校生が外国籍の高校生や小中学生に教えてくれたりしています。自分がここで役に立つことが楽しいということ、何か自分ができることがないかということ。やっぱりここで何が良かったといったらコミュニケーションがすごく簡単に取れないということが分かったから、それをどうやったら克服できるのがいいのかなということが分かったって、それがすごく自分にとってプラスになっているということだった。子どもたちとしても高校生、大学生と触れ合うことでお互いに先を見たりとか、近い関係で話ができるので、学習支援もいい若者づくりの場所になっていると私は考えています。

あともう一つ、ダボにせっかく行っているので、この前もコアラーミーティング帰国報告会で長く話していた子がいたと思います。彼はダボに行ってからダボと美濃加茂がどう違うのかということをダボに行って、それから美濃加茂全てを回って、美濃加茂はこういうふうだけど、ダボはこうだった、じゃあ美濃加茂こうしたらしいんじやないかって提案をすべてしてたんですね。なので、そういう子たち、せっかくダボに市の事業として行っているので、そういう子たちをここに巻き込んでいくと、一つ何か違う視点から見えるものがあるんじゃないかなという風に思いました。そういうところでいろんな関わりを少しづつ引っ張りながらやっていただければいいと思います。

大野課長

ありがとうございます。

最初におっしゃられた加茂高との連携の話。地域活性化スクールの事業として授業に関係している地域の方々ですか、企業の方ですかをうまく加茂高に繋げて、その中で課題探求してもらうというところにひとつずつ課として市役所として関係しております。そういったところとの関わりというのは、若者活躍として十分関わらせていただいているところです。加茂高校は普通科高校というところもありまして、加茂農林さんのようにもともとの授業で外と繋がる接点を常に持っていない状態があると思うんですが、逆にこういった事業に関心を持つ生徒さんというのは多いと感じています。ですので、やりたい人と聞くと何人も手を挙げてくれるという状態です。加茂農林さんですと既にやっているからという思いが多少はある。

ですので、本当はそういった経験のある高校生に来てもらうと、例えば加茂高の生徒は「そんなことやってるんだ」っていうふうに思ったりとか、ちょっと科学反応があるかなと思います。ぜひ、加茂高に限らずに美濃加茂高校とかまた可茂特支とか、いろんな人が来ることによって、美濃加茂市の若者って初めて言えるようになるのかなというのもあります。

今、委託業者のスタッフも実際に現場に来ていらっしゃるのは、岐阜市の方です。全国たくさんありますけれどもこの東海圏内ですと、まだそんなにたくさんの施設や場所というのがないものですから、この辺の事情というのを今いろいろ知り始めているところです。外国籍の方が多いですか、そういったところも一つ情報として得ながら活動に生かしていかなければなと思います。

- 藤井市長 先ほどの学習支援ですね。外国籍の子たちの未来は太田と吉井ですね。確かにここでもやっていますよね。
- 武田委員 今ここが水曜日と金曜日。
- 藤井市長 ちょうどずれているんですね。
- 武田委員 そうです。吉井が火曜日と木曜日で。高校生で通っている子、過年齢で今高校を目指している子も市の予算ではない別枠で実習授業として始めているので。
- そういう所に加茂高生や美濃加茂生とかが手伝いに来てくれています。
- 藤井市長 連携してもいいですね。ここはなにやってもいい場所なので、そういうことやりたい子が来てもいいわけですよね。
- 大野課長 もちろんです。
- 藤井市長 ここでマンツーマンでやったり、学習支援とか。
- 武田委員 ぜひそうして頂けると。
- 大野課長 曜日が違うんですよね。
- 武田委員 そうですね。でもその曜日に来たらいいよということを案内しておけばいい。
- 大野課長 またどのように案内したらいいか、教えていただければ。
- 武田委員 古井地区の子が結構いるので、ここに夜来るというのが難しい子もいる。
- 市長 ありがとうございました。
- 安藤委員 本当に小学生から大学生まで幅広いいろいろな事業をしていただいている、若者がとにかく思い出とか経験とか、記憶に残ることがあれば、大人になっても美濃加茂でこういうことをやっていたということで、戻ってくるという経験になるのではないかなど思います。
- 市外に流出するということも、私は悪くはないと思っていて、やはり外に出たからこそ先ほど武田さんがおっしゃった美濃加茂の良さを気づいたりとか違いを気づいたり、もっとこうしたらいいっていうのを学んできてくれたなら、一番美濃加茂にとってもいいのではないかなと感じています。
- あと、部活動とかをしていて忙しくて来れない人も多いと思うんですけれども、逆に部活動をしていない人が時間があって何もしていないんだったら、こういったところにやっぱり参加できると、それがスキルアップになっていくと思う

ので、そういう人たちにもっとアプローチができたらいいのではないかなど感じます。

以前、岐阜県の普通高校に魅力がないとか、特色がないということで、特色あるような事業をしていくという取り組みをしたことがあります。県内商業科とか工業科は全国的に有名ですけれども、普通科が特色がないのでといったときに、やはり地域との繋がりをもっとする、地域の企業さんと何かを取り組んでいくとかそういったことを検討されたときがあったので、まさにそういった事業になっているのではないかなど思います。ただ、どうしても公立なので先生によってどのくらい手厚くできるかというのも変わってくると思うので、本当に続けていただきたいので、変わったときには逆に行政の方がもうちょっとテコ入れするとかで継続していただきたいなと感じます。

あとは、地域活性化スクールに参加していた子がまち協に参加して、私は蜂屋の方でやってるんですけども、それこそ高校生の居場所とか小学生中学生の居場所を作りたいということで、連絡所を活用して3月ぐらいからやり始めているんです。もう大人は一切口出しせずに、聞かれた時だけ答えるみたいな形でいたら、本当高校生って自由な発想でどんどん進めてくれているので、発想がないのではなくて違うよと言われるのが怖いだけなのかなと思って、本当に自由にやらせてあげればどんどん新しい発想でチャレンジしてもらえると思っています。

あと、どうしても美濃加茂市はPRが苦手なところがあるのか、せっかくすごくいいことをやっているので、もっとテレビに取り上げてもらったりとか新聞に載ったりとかしてもいいと思うんですけど。関市とかは高校生の記事がすごく出るんですけど、美濃加茂市はあまり大きく出てないなというのを感じてもつたないので、ぜひ出していただくと高校生も自分がやったことが表に出て、特にネットもいいんですけども、やっぱり紙面とか印刷物とか公共のものに載るというのはすごくモチベーションも上がると思いますので、この辺もぜひお願いしたいなと思います。

大野課長

ありがとうございます。

企業との繋がりの部分は、動けば動くほど成果が出るというところもあります。今の担当職員もそうやって繋がることに必死で動いているところがあります。既に理解を示していただいて、いろいろとご協力いただいている企業さんもありますけれども、やはり数えられる程度ということもありますので、やっぱり商工会議所さんとか全体的にPRできるようなところに踏み込んでいくというところが必要かなと思っています。

若者の発想を引き出すことというところにつきましては、みんなそういうつもりで接しているけど、どうしても大人が喋りたくなってしまう。若手の職員といながらも、やっぱり働き出していくいろいろ地域とか企業との関わりというのを持っていて、どうしても先行して話しかやうというところがある。どれだけその自由な発想で話を聞けるようになるかというのは、ここのユースセンターの大事な立ち位置になるんじゃないかなと思っています。関心ある職員とかもセンターの中の様子を見に来てくれたりとかもありまして、あまり口出ししないようにすることで様子を今見ているところです。ありがとうございます。

市長

もう、あとはPRですね。PR頑張ってください。

なかなか新聞を若い人たちが読まないから、そちらに対するアプローチが弱くなりがちなんですけども、こういう若者に対する事業って議会もそうですし、市民の方から批判されることってほとんどないんですよね。やっぱりどの方もこれからの少子化の中で、若者に頑張ってもらいたいとか、応援したいという気持ちは多くの方が持っていたいしているので。だからこそそういう取り組みが世代を超えた皆さんに伝わっていくというのは非常に大事だなと思いますので、このあたりもしっかりと行いたい。

逆に若い子たちにぜひミッションとして提案してみると何か解決策が出てくるかもしれませんし。あと、もう一つキーワードで、私も大事だなと思ったのが2対6対2の働きアリの話ですけど、ポジティブな、吹きこぼれといいますか、まだまだやりたいことがあるのに美濃加茂にはやる場所がない子にはいい大人と出会ってほしい、いい仲間と出会ってほしいという気持ちもあるんですけど。

もう一つ、おっしゃる通りで居場所がないという若者たちも当然いらっしゃるので、そういう子たちにも場所を提供したいという結構難しい両面の目的を包含して持っているようなスタートではあるので、このあたりもどういったやり方で多くの若い人たちを引きつけて、応援できるような形にしていきたい。その中では、もしかしたら、場所を一箇所でやり続けるということだけではなくて、もっといろんなやり方で若者たちとの関わりを持っていかなければいけない。そこに先ほどの地域とか、ひとつくり課だけでやっていてはキリがないと思いますので、スポーツとか文化とかそういったところと連携して、企業さんと連携することで若い人たちに繋ぐ窓口になってくれるようなユースセンターであれば、また面白いのかなと思っています。

ぜひそういう視点では皆さんのおそれご活動も、ユースセンターを覗いていただいて面白そうな若者がいたらスカウトしてもらってもいいんじゃないかなと思います。私も期待しているところです。

榎間委員

一旦市外に出ても、ここがいいなと思って戻っているという人々はみんな繋がりがあると思う。ということは、中学校の部活だったり小さい時からの仲間だったりっていう苦しい事も一緒にやってきた仲間・友達みたいなことをすごく大切にしている。

これから部活とかを地域移行することになってきていくことを思うと、そういう結びつきを持ちにくくなっていると思う。反対にそうではない広がりも、いろんな人と繋がれる環境というのがここにあるということが大事かなと思う。

昔、市の事業で和歌山県由良町へ子供たちを学校関係なしに連れて行ってもらったりしたこと、そのことを思っていたり、文化の森で学習したことから、ここはいいなと思って戻ってくるとか。

一つ一つのポチポチとした点みたいなところで良さを感じている子たちもいると思います。ずっと力を出して積極的に関わっていける中高生ばかりではなく、そんな子たち。さっき渡辺さんがおっしゃったような積極的ではない子たちにもポチポチとした点が残っていて、あの頃はよかったですと思えるような事業がやっぱり大事。前なら自然と学校の中にあったような気がするんですけど、

それがこれから少しずつ薄れていくと思うと、ハードルが高くないそういうものがあるといいなと思いました。

例えば図書館の本をきちんと並べるのを放課後1時間やるとか、市のそういう事業をアルバイト的にやるとか、高校生でちょっと報酬があつてお仕事していくとか、そういうようなこともあっていいのでは。英語が得意な子がいたら中山道に外国人が来た時に案内する有償ボランティアができるとか、仕事としても1つあるんじゃないかなと思います。なかなか積極的に行こうとできない子も、そういう枠組みがあって、決まった事に自分の得意なことだと思えばそこに一人でも行ったりできるのではないかなと思います。積極的に参加できる子ばかりではないと思いますので。

高校卒業しても大学、専門学校でそれじゃなく働きにいく子たちも、自分関係ないみたいな感じを抱かないように、その年代に対する声かけみたいなのがPR含めて広がるといいなと思います。

大野課長

人との繋がりは大事にしたいことだなと思っていますし、居場所づくりとしてやっていて、そこに来て何をしていてもいいよ、家に一人でいるよりも外に出てきたらっていうくらいで、居場所づくりというのは緩い場所です。結局そこには他の人がいてっていう。あえて他の人がいることを分かっていて、そこを選んで来ているということは、何かしらそういった機会を求めているのかなと思います。

その子その子のタイミングを見て繋げていったり、関わりというところの提案をしてみるとこのところは、ユースセンターの運営事業者の得意な分野というところもあるので、そういうやり方を我々もいろいろお見せいただきながら、その子が大きくなつても、自分があそこに行っていたなという記憶に残る中で、それが何らかいい思い出だつたり、今後の自分作りに繋がつたらいいなというところも思いながらできるといいと思います。

働くという責任を持って自分はこういうことをやってみたいとかという希望がその子たちから出てくるようになれば、それを実現できるような橋渡しができるといいかなというふうには思います。そういうことをやる子たちがあそこにいるよって事をいろんな方に知ってもらう機会があれば、体験といいますか、そういう仕事的なことも受け入れていただける企業や施設や地域の人たちが出てこればいいかなというふうに思っています。時期を見ながら、そういうところは考えていくべきだと思います。

藤井市長

そうですね。企業だけじゃなくて先ほどの図書館の話じゃないんですけど、市の事業も関わってもらうとか。本当にありがたいなと思っているのが、この前の花火大会もそうですし、音楽のイベントもそうですけど、地元の高校生がボランティアで関わっているのもありますし、先ほど紹介した駅前のイベントも、さつきの若手の市の職員と高校生たちがイベントの準備をみんなで一生懸命やってくれている姿を見ました。

いい大人が関わりながら彼らも火がつけばどんどん自分たちで活動というのを広げていけると思うので、そういうきっかけを私たちも提供することまでは手伝っていかないと。以前は消防団を高校生に少しでも体験してもらおうって

いう提案があった時期もあったり、いろんなところにあると思うんですけど。この繋ぎ役として、まさにこのセンターがうまく機能してくれるといいなと思います。そういったご意見をいただければと思います。

古川教育長

若者の活躍ということで、ひとづくり課がいろんな取り組みをしている。若者の居場所、活躍の場というのを改めて教えてもらった形で、私も気づいていない部分もたくさんあったなってことを思いながら、これもひとづくり課だけではなくて、教育委員会ももちろんすけども、市全体で関わり合いながら進めていきたいなと改めて思いました。

若者の活躍ということですけど、今も話があったんですけど、いろんなイベントで特に高校生、大学生の活躍の姿というのはここ最近よく見えるようになつたなということは実感として思っています。駅フェスとか駅ナイトについても、若者が生き生きとしている。やらされているというのではなくて、自分たちで作っているという活力が見えるなというのと同時に、市の職員の特に若手の職員が本当に生き生きと動き回っているというのも印象に残っているところです。こうしたことでも、若者が輝くまちづくりという事業の一つの成果として出ているなどということを改めて思っています。

ユースセンターについてもいいなって思うことが大きく2つあって。1つは中学生とか高校生とか年齢を超えた若者がいろいろ1つのテーブルで話をしている姿を見た。これも普段こういう姿っていうのは出てこないと思う。これも大事な一つの居場所だなと思う。2つ目は学校の枠を超えること。高校生も一つの学校の中だけではなくて、制服が違ってもいろんな人たちが混ざって活動している。そうした姿を引き出させていただいているなということを思っています。

いずれにしてもいろんな動きがあるんだけれども、共通しているのは、これをやらなければならないという決まったものではなくて、何か自分たちで作つていこう、今が完成形ではなくて今からより良いものにしていくためにはどういうふうなことをいこうかということ。ユースセンターも今の状態が完成形ではないので、2年後、3年後どんな部屋になっているのかということも楽しみです。

そうした、こうあるべきというものではなくて、自分たちで想像していくる場だなと思います。自分たちでいろいろ意見を出し合って、より良いものを作つていこうという、そういう共通項があると思っています。

三和小の子どもたちの写真も見せてもらったが、こうしたことでの学校の子どもたちも活躍させてもらえる場にもしていただいているというのは本当にありがたいなということを思っています。

PRという話もあったんですけど、そうした意味でいくと外向けにPRするということもとても大事だし、府内でもPRしていく必要はあるなということを改めて思いました。

藤井市長

その他何かご意見がありますでしょうか。

丸山副市長

先ほど市長さんからも言っていただきましたけども、やっぱり百聞は一見に如かずだと思うんですよね。6階の部屋というのは、始まる前に大くりフォー

ムしていただいて。子どもたちが行きたいとかやってみたいとか、また来たいとか、そういう明るい雰囲気に。この事業、それから教育委員会で所管しているフリースペースを同じ場所で行っているという事なので、ぜひこれからのイベントもいろいろ見たいなと思います。さっきもフリースペース覗いたら子どもがマツケンサンバを踊っていました、そういったところもふらっと見ていただきたいなと思っています。

さっきの働きアリの話でいうと、元気な子どもたちはいいんだけども、そうでない子もここに繋げたいなと思っています。現状としては不登校の子どもが3人来てもらっています。最初はやっぱり親御さんから連れて行っていいですかという事で問い合わせがあって來たんです。で、元気のいい子どもたちがゲームかなんかしていると、そこに入れるか最初不安だったんだけども、来てみたら交流を始めて。2回目からはもう一人も來たというような状況なので。そういった子どもたちも安心できる場所というか、心の居場所になればいいなというふうに思っています。

昨日は大学生と語ろう会があったんですけども、子ども相談センターから繋がって、家庭的に厳しくて居場所がないというような子がいて、連れてっていいですかというので昨日來ていましたね。その子も全然そんなこととは分からずに子どもたちと合流出来たという事がある。やっぱりそういった子たちでもこういう情報をキャッチできるようにPRが必要だろうし、さっき言った府内、家庭で困っているというのは、学校や家庭だけでは解決できない。いろんな背景があると思うので、やっぱり福祉なども含めて府内でも共有していきたいというふうに思っています。

渡辺事務局長

ひとつくり課とはもちろん関わらなくてはいけないし、お互いの状況を知らないでは絶対にいけないと思っていて、お互いに共通することがすごく多いと思うんですけど。同じ会場で時間と対象を変えてやっているんですけど、そこで交流することもあってもいいのかなと思いながらいろいろ見ているところです。

まだ会場をご覧いただいていると思うので、ちょっとお時間がありましたら、またご案内したいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

明星学校教育課長

今丸山副市長がお話しされましたけれども、併設ではない時間帯の区切りの中で、あじさいフリースペースというような形の中で運営をしています。加茂野とこちらの決定的な違いは何かということを考えると、もちろん加茂野があったからかもしれないけど、初日に6人來たんですよ。それは多分ここの6階の環境の素晴らしさというのがあると思います。なおかつその中に入つてみると、子どもたちの姿っていうのはすごく自分を表現しようとしている。だから本当にいろんな子どもたちであったとしても、小学校、中学校、高校でもそうなんだけども、先ほど渡辺委員さんが「輝いて当たり前」で、もちろんそうだなっていうふうに僕は思っています。つまり表現の仕方であったりとか表現の場であったりとか、そういったものを自分の中からシャットアウトしてしまっている状況にあるのかなというふうに僕は感じます。

勤務時間後に6階に入ってそういう姿を見ていると、午前中にやっている子どもたちと同じような自分を思いっきり表現をしているというような状況があるなと思います。それが第一段階としていい空間作りとなっているのかなと思います。これから内容であったりとかいろんなまちづくり経験であったりとかというふうに上がっていくんだなと思い、すごく期待が持てるなと私は感じました。

藤井市長

ありがとうございます。

ひとまず若者活動支援事業の紹介ということです。

時間が来てしまっておりますが、その他ということで何か意見交換したいことやこの機会にお話等ありましたらいかがでしょうか。

また、随時皆様方からいただければすぐに我々対応しますのでよろしくお願ひします。

せっかくなので関心事としまして、熊の話って教育委員会でされました。

渡辺事務局長

今すぐこの会議に入ったので、まだ何もしていないです。

藤井市長

熊は美濃加茂市ではまだ出でていませんけども、昨日が富加、川辺は一昨日ぐらいですかね。八百津・富加・川辺で目撃情報が出始めています。通学とか、子どもたちが連休期間中に遊ぶとか、非常に確率は低いかもしれませんのが、出会ってしまった時の危険性は非常に高いので、ここも他人事とは捉えず、現場をもっている我々としては意識をもっていきたいと思います。皆様方からも、何か気になることがあればいただきたいと思います。我々も意識高く対応しているということは周知させていただきたいなと思っております。

第2回の総合教育会議を開催させていただきました。引き続きどうかよろしくお願い申し上げます。

閉会 午後3時30分